

平成26年度

第59回 長野県中学校連合教科研究会

社会科

目次

I	研究テーマ	-----	1
II	研究の趣旨	-----	1
III	参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名	-----	1
IV	研究問題と協議内容		
	第1分科会	-----	3
	第2分科会	-----	6
	第3分科会	-----	8
V	本年度研究会の反省と来年度への方向	-----	10
VI	あとがき	-----	11

(社会 1)

I 研究テーマ

「社会的事象に対する見方や考え方を深める素材・教材と学習問題の在り方」

II 研究の趣旨

生徒一人一人が主体的に課題を探究し、社会的事象に対する見方や考え方を深め、表現していく授業が実践できたかを、具体的な素材・教材から生徒の変容をとらえ、共有の財産としていきたい。また、具体的にどのような学習問題によって授業を実践していくことが、基礎的・基本的な知識や技能の習得とそれらを活用していく力、課題を探究していく力を育てることができるのかを究明していきたい。

III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名

第1分科会

指導者	喜多 篤史 先生 (東信教育事務所指導主事)	
司会者	溝口 俊一 先生 (千曲市立屋代中学校)	
記録者	伊藤 彬 先生 (安曇野市立穂高西中学校)	
世話係	簾田 典彦 先生 (附属松本中学校)	
学校名	氏名	参加校の研究の要旨
立科中	小林 祥平	・自然環境を視点に学習してきた内容を分類する学習の効率化を図るためのグループ学習 ・自然環境と他の視点とを結び付けて考察する学習カードの工夫
第六中	篠原 敏紀	・近現代における上小地方の養蚕を中心にした地域素材の学習を通し、日本全体を見渡す視点を獲得する学習展開の工夫
永明中	武居 悠輔	・公民分野の導入として、生徒がくらす地域(茅野市)の少子高齢化に焦点をあてた学習展開の工夫 ・資料をもとにグループで話し合い、互いの考えを出し合いながら意見を練り上げた学習
辰野中	樋口 達也	・世界の諸地域の最後の単元として、それまでの学習を生かした単元展開の工夫 ・ツールミン図式を用い、生徒が自分の考え、考えの根拠、参考とした資料を明確になるようにした学習
根羽中	井澤 進一	・生徒が必要感をもって社会的事象を追究していくための学習展開の工夫
天龍中	小田切洋輔	・少人数での授業において、生徒の見方・考え方を深めるために学習展開の工夫 ・歴史事象を多面的にとらえ、公正に評価することの有効性
丘中	佐藤 伸一	・社会的事象に自ら関わるために、生徒の関心を引きつける教材化の工夫 ・生徒の意見をどのようにとらえ、どのように評価していくか
穂高西中	伊藤 彬	・地域素材を用い、「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方を実感できる単元展開の工夫 ・生徒が自分の考えの根拠を明確にしながら構築する小黒板の活用
豊科南中	矢花 陸崇	・学び合いの場を設定し、仲間と学び合うことを通して、見方・考え方を深めていく授業展開の工夫

(社会 2)

屋代中	溝口 俊一 篠原 岳成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を自己に引き寄せるための地域素材（屋代木簡）の教材化 ・総合的な学習の時間と社会の学習の連携、地域の施設（県立歴史館）の活用を図った学習展開
附属長野中	内川 啓	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を高めるために、「時代特色シート」を作成し、友と意見交換する中で、その時代の特色をとらえた学習
附属松本中	簾田 典彦	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材である松本藩にあった藩校「崇教館」を調査する活動を通して、江戸時代後期の幕府や諸藩の動きをとらえるた学習

第2分科会

指導者	柳澤 正寿 先生 (北信教育事務所指導主事)	
司会者	古村 淳仁 先生 (伊那市立西箕輪中学校)	
記録者	中山 敦 先生 (駒ヶ根市立赤穂中学校)	
世話係	楠 武明 先生 (附属松本中学校)	
学校名	氏 名	研究の要旨
芦原中	山科 亮太	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象に対して見方・考え方を深める授業はどうあったらよいか～自分の考えを表現できる生徒に～ ・時事的な話題を扱った資料提示の方法 ・見方・考え方を深め、自分の考えを表現できる姿
和田中	西村 良幸	<ul style="list-style-type: none"> ・社会事象に関心を持ち、見方・考え方を深めていく社会科学習はどうあったらよいか ・地理的な見方や考え方を深めるための教材と教師の支援
諏訪中	根津 彩香	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人口問題について生徒が主体的に考えるための授業の在り方とは ・地域の問題について、主体的に関わり、考えていくための授業のあり方
西箕輪中	古村 淳仁	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を多面的・多角的に考察し、思考の過程や判断の結果を適切に表現する力を高めるための指導の在り方 ・「世界の諸地域」の単元配列と単元展開の在り方
広陵中	下平 健吾	<ul style="list-style-type: none"> ・共に育つ生徒～個の自由な学びを支える共学の在り方～ ・知識を活用し、資料をもとに追究するための手だて
豊科南中	小林 秀司	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と学び合うことを通して、自己の見方・考え方を深める支援の在り方 ・地理的分野における学び合いの設定について
北安松川中	北沢 賢悟	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でのグループ学習を通して、友と考えを共有し合い、多面的・多角的に社会事象を深く追究していく社会科学習 ・小グループでの学習の効果的な位置付け方 ・調査や話し合いの際の必要感の持たせ方
附属長野中	平塚 広司 麦島 隆	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を高める指導の在り方 ・視点同士を関連付けながら、歴史の大きな流れを整理することができる手だての在り方
信濃小中	中山 南斗	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加する市民を育成するための素材・教材研究、学習問題の在り方 ・思考力、表現力、技能、知識を高めるための授業づくり

(社会3)

信明中	黒岩 正章	・社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして自分の考えを表現していく社会科の学習 ・単元を貫く問いの設定とその振り返りの在り方
附属松本中	楠 武明 峰岸 季子	・自分の暮らしと結び付けながら社会的事象の価値を見いだしていく社会科の学習 ・博物館や図書館と連携しながら、生徒が生き生きと学習をまとめ、表現していく単元構想

第3分科会

指導者	百瀬 顕正 先生 (中信教育事務所指導主事)	
司会者	保科 潔 先生 (諏訪清陵高等学校附属中学校)	
記録者	中村 広登 先生 (阿南第二中学校)	
世話係	柳澤 大介 先生 (附属長野中学校)	
学校名	氏名	研究の要旨
青木中	加々井潤一	・生徒の主体的な学びを生み出す単元展開の在り方
岡谷北部中	月岡 優介	・体験的活動を通して社会科の学習内容を理解する授業の在り方
諏訪清陵高等学校附属中	保科 潔	・生徒の事実認知の変容を促す学習問題の在り方
箕輪中	宮尾 涼子	・社会科学習における有効的なICT教材 (ipad) の活用の在り方
阿南第二中	中村 広登	・多面的・多角的に考察する社会科学習の在り方 (具体物の提示やグループ活動に視点をあてて)
鼎中	宮田 雄	・異なる友の見方・考え方を生かして考察するグループ学習の支援の在り方
両小野中	小坂 寿樹	・見方・考え方を共有し、学びあう授業の在り方 (学びあう土壌づくりや情報共有の工夫)
豊科南中	丸山 陽央	・仲間と学びあうことを通して、自己の見方・考え方を深める支援の在り方
小布施中	長尾 恭照	・根拠を示しながら、自らの言葉で社会的事象を説明できる授業の在り方
山之内中	秋山 可織	・見方・考え方を広げたり深めたりするためのグループ学習の在り方
丸ノ内中	有賀 武	・資料をもとに考察し、表現する力の育成の在り方
附属長野中	柳澤 大介	・歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を高める指導の在り方 (時代特色シートの活用)

IV 協議内容

第1分科会

討議1 友と関わりながら見方や考え方を深めていく授業の在り方

1 レポート発表

- (1) 徳川吉宗に焦点を当てながら、少人数の授業の中で歴史を公正に判断する力をつけさせようとした実践。(天龍中)
- (2) 「ストックシート」を用い、近世の時代の特色を友と意見交換しながらとらえさせた授業の実践。(附属長野中)
- (3) 小グループで話し合う活動を通し、資料から寒帯に住む人々の生活の特色について考えた授

(社会 4)

業の実践。(豊科南)

2 協議

- (1) 歴史を公正に評価するという判断基準が難しい。幕府の視点なのか、百姓の視点なのか。最終的には判断することが目的になってしまうのではなく、歴史の全体像をとらえることが大切。
- (2) 「ストックシート」は毎時間の学習で時代の特色をまとめるために有効。毎時間の積み重ねが明確になり、単元を通して生徒が学び、成長する姿が付箋一枚一枚に表れている。
- (3) この授業の学習問題で、グループ活動が必要なのか。グループだからこそできることを大切にしていきたい。生徒に必要感が生まれるのか。グループ活動を行う目的が何なのかを明確にした授業にしたい。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 人物の比較や判断はあってもよいが、最終的には歴史全体の特色を生徒が述べられるような展開を工夫したい。生徒が様々な立場から歴史を判断する学習をした点に、価値があった授業だと言える。
- (2) 「時代特色シート」を用いながら、近世の時代の特色について友と意見交換する場を位置づけることが、時代の特色を多面的・多角的に考察し、説明する力につながっている。
- (3) 人権的な配慮を欠かさないことが大切で、生徒から「(生肉を食べる姿が) 気持ち悪い」という声があった時はどのように正しい理解を図ろうとするのか、教科の先生たちと協力し合いながら考えていきたい。
- (4) グループ学習は手段であって目的になってはいけない。グループ学習をすることによって、生徒がどんな姿になることを目指すのか。また、生徒がその姿に近づくために教師はどんな支援をするのかを考えたい。

討議 2 地域に学び、見方や考え方を深めていくための指導のあり方

1 レポート発表

- (1) 身近な地域の素材を教材化し、生徒の意欲を引き出し、追究を深めようとした授業の実践。(第六中)
- (2) 「屋代木簡」を素材として、調査活動を行いながら社会的事象を自己に引きつけようとした授業の実践。(屋代中)
- (3) 自分の暮らしと結びつけながら社会的事象の価値を見出していく社会科の学習を目指した授業の実践。(附属松本中)

2 協議

- (1) 地域素材を活かし、上田の人々が満州に行きたいと思った根拠となるような資料を提示できるとよい。地域素材を教材化し、中央史の学習と結びつけようとしたことに授業の価値がある。
- (2) 木簡という具体物があったことで、生徒が興味を持って地域の歴史を学ぶことができた。地域素材を取り入れる際は、数多い素材から生徒に何を与え、どんな力をつけさせたいかを明確にしたい。
- (3) 身近な地域のことを学習し、それが今の自分の学校にもつながっていることを知ったことで、生徒が興味をもって学習できた。限られた資料の中で単元を構成していくことの難しさが課題。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 地域素材の教材化については、素材が教材になるかどうかをよく吟味したい。それが学習指導要領に書かれている内容を満たすことができるか。また、地域素材を扱うにあたっては、地域の協力が必要となるため、それが可能かどうかを事前に調査し、授業づくりをしていきたい。
- (2) 歴史の中で身近な地域素材を扱う場合、生徒が地域史を学習していく中で、地域の具体的な事象を通して中央史について実感をもってとらえることができるような展開を工夫していきたい。
- (3) 生徒が追究したくなればなるほど、それに応えられる資料を保障することが難しくなる。教

(社会 5)

師が全体の様子を見守り、必要に応じて支援を必要とする生徒を支えていけるようにしていきたい。

討議3 社会的事象に学び、見方や考え方を深めていく授業のあり方

1 レポート発表

(1) 世界の諸地域の学習の中で、生徒が暮らす身近な地域にも目を向けていける学習をめざした授業の実践。(根羽中)

(2) 生徒が問題に対する考えを論理的にまとめ、考察するための手立てとしてトゥールミン図式を用いた実践。(辰野中)

2 協議

(1) 根羽村とドイツの村との比較を、限られた時数で学習していくのは難しい。ドイツの村の様子を見た生徒が、それを身近な地域の活性化につなげていきたいと感じるような単元展開を工夫してみたい。

(2) 世界の諸地域のまとめとして、オセアニア州以外の地域を扱ってもよいのではないか。また、生徒の考えを引き出す発問の方法として、資料を提示したときの生徒の素直な反応を取り入れた展開を工夫したい。

3 指導者の先生のご指導

(1) 世界の諸地域の学習については、その州の地域的特徴を捉えさせることが大切。資料が充実しているため、他の単元での活用も考えられる。また、黒板に論点を整理すると生徒が視覚的に判断しやすく、効果的。

(2) 世界の諸地域で扱う順序については、生徒の学習の姿と結びつけながら展開できるのであれば変えてもよい。学習問題設定の場面などで、生徒のつぶやきを大切にし、そこから教師の発問へと結びつけたい。

討議4 様々な立場の考え方を理解し、社会的な見方や考え方を深めていくための指導のあり方

1 レポート発表

(1) 生徒がくらす地域に焦点をあてながら、少子化が進む理由を考えさせた授業の実践。(永明中)

(2) 「新しい市民体育館の建設の賛否」を題材として扱い、学習内容と地域の社会事象に興味を持たせた実践。(丘中)

(3) 入山料をとるか取らないか、資料を根拠に友と考え、「対立と合意」の大切さを生徒が実感した授業実践。(穂高西中)

2 協議

(1) 新聞記事の内容が多いが、欲張らずによく吟味して使いたい。少子高齢化の扱い方を工夫したい。

(2) 体育館の素材をどう扱うか。その際、体育館建設の背景を明確に生徒がわかるようにしておきたい。

(3) 対立と合意の大切さや難しさを実感させる手立てとして、入山料は生徒の興味を引く話題でもしろうい。

3 指導者の先生のご指導

(1) 資料を段階的に提示し、一つずつ学習内容を共有し合っていく学習もよい。資料を提示した後の生徒の声をそのまま聞き、その言葉の続きにあるものや、背景にあるものを聞き出していけるとよい。

(社会 6)

- (2) 生徒の意見を聞きながら学習を進めることに、住民として地方自治の基礎を身につけさせるヒントがあった。地域素材の教材化については、教科会で教材の扱い方や資料などを共有して、その学校の財産となるようにしたい。
- (3) 教材研究の深さが伝わってきて、それが生徒の意欲を掻き立てた背景にある。また、合意に至ることの重要性を生徒が実感できたことが大切で、公民の導入として「対立と合意」の単元を大切にしていきたい。

午後の演習について

九州地方の学習で、自然環境に焦点を当てて授業を行った立科中学校の発表の後、「日本の諸地域」で何を中核としながら学習するかを考え合った。指導者の先生からは、各校の教科会でそれぞれの地域的特色を明確にした上で授業を行うこと、また、中核となる地理的事象に有機的に関連付ける他の事象とその関連を明確にしておくこと、まとめ方として白地図や絵を使い、表現していく学習を取り入れると効果的であることなどをご指導していただいた。

(文責者 穂高西中学校 伊藤 彬)

第2分科会

討議1 友とのかかわり合いを通して、見方や考え方を深めていく指導のあり方

1 レポート発表

- (1) 中京工業地帯が発達した理由について、地形図を読み取り、トヨタ自動車の関連工場の分布に着目して考察した実践。(豊科南中)
- (2) アフリカ州の地域的特色を追究していく場面で、アフリカ州の未来と日本の支援のあり方を考えるために、小グループで話し合った実践。(松川中)
- (3) アフリカ州の地域的特色を追究していく場面で、モノカルチャー経済に着目し、脆弱な経済基盤と諸課題との結びつきについてグループで話し合った実践。(広陵中)

2 協議(グループ学習における注意点や工夫点について)

- ・グループで何を考えるのか、やるべきことをはっきりさせ、見通しをもたせることが必要である。
- ・自分の考えをもち、その上で友の考えを聞きたいと思ったときに、グループ活動の必要感が生まれてくる。
- ・司会者の設定やグルーピングの工夫も有効に働くことがある。

3 指導者の先生のご指導

- ・地理的分野の学習では、地図から読み取れる事実をもとに学習問題を設定していくことを大切にしたい。子どもの「なぜ」は、事実をとらえるところから生まれる。少人数のグループ学習は、社会科だけでなく全教科で行っていくことが、思考力・判断力・表現力の育成につながる。
- ・全体で見る資料は、できるだけ模造紙大の大きさと、カラーにしたい。子どもに何を読み取らせるか、教師の問い返しにより、資料の見方が焦点化され、生徒の言葉による学習問題が生まれてくる。
- ・資料の見方を焦点化し、その上で問い、調べて、解決する、という単元のストーリー化を教師は考えたい。
- ・アフリカ州の学習は、アフリカ州の発展と日本の支援のあり方については、1年次の地理的分野であまり深入りせず、3年次の公民的分野の国際協力のあり方で扱っていく方がよいのではないか。
- ・自分の考えを説明し合うなどグループの言語活動を行う学校が増えてきてよいことであるが、た

(社会 7)

だグループ活動を授業で行えばよいというわけではない。教師が、見方を広げる場面、考えを深める場面など、ねらいを見定め、意図をもって、グループ活動を設定していくことが大切である。

討議2 地域教材を取り入れて、見方や考え方を深めていく指導のあり方

1 レポート発表

- (1) 諏訪市の人口問題を教材化し、人口減少をくい止めるための方法を追究した実践。(諏訪中)
- (2) 信濃町のデマンドバスを教材化し、公共交通のあり方について考察した実践。(信濃小中)
- (3) 松本市の藩校を教材化し、崇教館と藩政改革との関わりについて調べた実践。(附属松本中)

2 協議(地域教材について)

- ・自らの足で稼いだ資料には教材的価値がある。教師自身が面白いと感じる事象を見出したい。
- ・地域素材には、さまざまな内容を総合的にとらえられるよさがある。
- ・「地域素材をこの場面で扱うよさ」を考えたらうえて、何を、どう与えていくかが一番の思案のしどころである。

3 指導者の先生のご指導

- ・少子高齢化の問題は、地理的分野、公民的分野で取り上げられている。地理的分野の「世界と比べた日本の地域的特色」の「人口」についての「少子高齢化」は、諏訪市の人口問題の解決策などを考えるのではなく、日本の少子高齢化の課題を大きくとらえるようにしたい。
- ・地域素材を扱ったあとのテストで、授業で扱った内容がしっかりと出題されているという点がよい。
- ・身近な地域素材を教材化する際は、学習指導要領に示された内容をもとに考えていくようにしたい。課題を見つけ、探究的な学習をしていくことは総合的な学習と社会科は共通しているが、教科としてのゴールがあるのが社会科であるので、教科としてのねらいを明らかにした教材化を図りたい。そのためにも、どれだけ学習指導要領を読み込むかが大切である。

討議3 多面的・多角的に考察するための授業のあり方

1 レポート発表

- (1) カップ麺の味付けや餅の形などの追究を通して、日本の地域区分について、多様な分類ができた実践。(和田中)
- (2) 書きためた「ストックシート」をもとに、「時代特色シート」を作成することで、近世の特色について多面的・多角的に考察することができた実践。(附属長野中)

2 協議(多面的・多角的に考察するための手だてについて)

- ・実物は興味を引きやすい。導入だけではなく、追究や定着の場面においても具体物を使う方法を考えたい。
- ・「多面的・多角的」とセットで使うことが多いが、「多面的」と「多角的」の違いは何か。

3 指導者の先生のご指導

- ・多面的は「～の面では」、多角的は「～の立場として」と考えるとわかりやすい。
- ・例えば、二種類のカップ麺をもってきて、比較するだけで、生徒が調べたくなるような問いが生まれる。具体物を使うことのよさを生かしたい。
- ・歴史的な分野における導入時については、時代の特色の究明に向けた課題意識を育成することが大切である。「単元を貫く学習問題」が設定できるように、その時代のイメージできる絵や代表的な写真、図などを用いると、時代に対するイメージを生徒がもちやすい。

(社会 8)

討議4 考察の過程や、判断の結果を適切に表現するための指導のあり方

1 レポート発表

- (1) 地理的事象同士の関連を関連図にまとめ、それをもとに、アフリカ州に栄養不足の人が多い理由を記述した実践。(西箕輪中)
- (2) 消費増税の新聞記事を読み取り、消費増税への賛成・反対を判断した実践。(芦原中)
- (3) 価格の決め方と消費者の商品選択を根拠に、寿司チェーン店での100円皿と180円皿の売れ行きの違いを説明した実践。(信明中)

2 協議(表現力を高める手だてについて)

- ・主眼の末尾の文言が「自分の考えを表現している」では、評価の規準が曖昧になってしまう。同様に「適切に表現」や、「公正な判断」とは何かについても、吟味して考える必要がある。
- ・「発表する」「記述する」「レポートにまとめる」など、表現の方法もさまざまである。どの場面でどの表現方法を使うのかを考えていきたい。

3 指導者の先生のご指導

- ・関連図を作ったことにより、事象間のつながりが視覚的にわかるようになっている。矢印でキーワードをつながせて終わりではなく、矢印を結んだ意味を含めて文章化させていることに重点を置いているのがよい。
- ・寿司の価格の決め方が、需要量と供給量の関係で表せるかについては検討する必要がある。価格(お金)が、物の価値を表すシグナルとしての役割を果たしているということに、単元のねらいをおくとよかった。
- ・思考・判断型の学習問題の授業では、適切な思考・判断ができた姿がどんな姿なのかを具体的な記述例で示しておきたい。例えば、「消費税増税に反対か、賛成か」という学習問題だとしたら、判断はどちらでもよいが、何を根拠にしていればよしとするなど評価規準を明確にもつことが大切。

演習 「日本の諸地域」の教材化

1 個人検討、グループ検討(どの地方で、何を中核にして考察するかを決めだし)

2 指導者の先生のご指導

- ・「日本の諸地域」の学習では、7つの地方を7種類の中核となる方法で考察していく。安易に「教科書通りに進める」のではなく、どの順番で、どのような考察方法で、どのような学習問題で展開していくのかを、教科会でしっかり検討したい。同様に、「世界の諸地域」の学習でも、6つの州の単元配列を見通して単元展開を考えたい。

(文責者 赤穂中学校 中山 敦)

第3分科会

討議1 グループ活動を通して見方や考え方を深めていく授業のあり方

1 レポート発表

- (1) 世界各地の人々の生活と環境の単元「雪と氷の中で暮らす人々」の授業で、様々な資料を読み取り、グループ活動を行うことでその地域で暮らす人々の生活の特色について考える実践(豊科南中)
- (2) アジア州の単元において、授業の導入部分で資料提示を工夫したり、見方・考え方を深め、広げたりするためにグループ活動を用いた実践(山ノ内中)
- (3) 中部地方の単元で、追究の視点を明確にしてグループ活動を行い、事象を多面的多角的に考察

(社会 9)

していく実践 (鼎中)

2 協議

- (1) 予想を考えたり、資料の読み取りをしたりするのは、まず個人で活動してからグループで友達と意見交換をする方が良いのではないか。
- (2) グループの編成の方法は、生活班、生徒指導に配慮して編成、意見が対立する者同士など生徒の実態に合わせて編成するのが良い。

3 指導者の先生のご指導

追究は個で始まる。個人で資料とじっくり向き合い読み取れるようになっておかなければ、その後のグループ活動での深まりはない。またグループ活動で何を明らかにするのか生徒が見えるようにしておくことが大事であり、グループ活動の出口で生徒がどのような姿になっているか教師が明確にもっておくようにする。

討議2 多面的・多角的に考察する力を育てる授業のあり方

1 レポート発表

- (1) 九州地方の単元で、具体物を用いたり、付箋紙を使ったグループ活動を行うことを通して学習していくことで多面的多角的に考察する力をつける実践 (阿南第二中)
- (2) 東北地方の単元で、新聞記事や地域の方のお話などの資料を読み取り活用して、多面的多角的にとらえ、説明できるように構想した実践 (丸ノ内中)

2 協議

- (1) N I E は今の事象をとらえ、生徒が意欲的に学習していく上で有効だが、新聞を使う場面をよく考える必要がある。
- (2) 地理的分野の日本の諸地域の単元は地域の特色をとらえる学習であり、単元の最後に「この地方はこういう地域です。」と言える必要がある。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 素材を使って生徒に何を学ばせるかが教材化である。素材に出会うだけでは意味がなく、そこから生徒に何を考えさせるのが大事である。
- (2) 単元名は単元末の生徒のゴールの姿を教師が据えて考える。教師がその単元をどう見ているかが表れる。

討議3 学習効果を高める学習方法のあり方

1 レポート発表

- (1) 身近な地域の学習において、ipad を用いることで学習内容を自分のものにして応用したり、身近な地域を自分の目で見えながら地形図の学習を行った実践 (箕輪中)
- (2) 地理的分野の導入部分において、地球儀にテープを巻くなど体験的な活動を行うことで、生徒の学習意欲を高め、目的に応じた地図の使い分けができるようにした実践 (岡谷北部中)

2 協議

- (1) ipad を用いて Google earth などを使うことで、地域を実感しながら調査活動を行うことができる。また、ICT 教材は導入だけでなく、協同的な学習の追究として行えると良い。
- (2) ICT 機器は地理的事象の大きさや広さを実感するためだけでなく、生徒の学習の記録やファイルの保存のアイテムとしても使える。

3 指導者の先生のご指導

ipad などの ICT 教材は資料の提示だけでなく、手元の資料を全員で共有したり、ある生徒の記

(社会 10)

述や表現をすぐに共有できる点でも有効である。

討議4 生徒が自ら追究したくなる学習問題

1 レポート発表

- (1) 奈良時代の学習で、生徒が大仏の実際の大きさを体感したり、大仏クイズを行ったりすることで生徒が意欲的に追究できるようにした実践（青木中）
- (2) 古代の学習において、既有知識を有機的に結びつけ、仲間と意見交換をしたり、生徒が必要感をもって学習していくなかで、生徒に新たな見方・考え方が育まれたり、自らの考えに確信を持てるようになった実践（諏訪清陵中）
- (3) 近世の学習で、「ストックシート」に書きとめ、それをもとに「時代特色シート」を作成し、時代の特色をとらえる活動を行い、友との意見交換を通して時代の大観を行った実践（附属長野中）

2 協議

- ・ストックシートのように、生徒の今までの学習を蓄積し総合することは、単元全体の特色をとらえたり、まとめを書いたりする上で有効である。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 小学校の歴史は人物を通じた学習であり、中学校ではその間を埋める歴史の学習となる。そのために、政治の変化や外国とのかかわりなど様々な面を見ていく。
- (2) 歴史的分野の学習では1時間1時間がつながっており、各時代の共通点や相違点を見ていく必要がある。

動態的地誌で日本の諸地域の授業を構想する（演習）

- (1) 東北地方と関東地方の2グループに分かれ、各地方で中核となる事象に関連づける事象を図にまとめた。
- (2) 各地方の地域的特色をまとめ、単元を貫く学習問題を考えた。

（文責者 阿南第二中学校 中村広登）

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項目	内容
○本年度の研究テーマについて	・よい。来年度も継続したい。 ・様々な社会的事象に対して自分の考えをもち、それを周りに伝えていくことはとても重要であり、本研究テーマを追究していきたい。 ・様々な観点から討議できるテーマで、また深めることができよい。
○研究の主な内容と研究の成果について	・各校それぞれ特徴ある実践があり、学ぶことが多かった。 ・具体的な実践例のレポートから、日々の実践に活かせる内容となった。 ・グループ学習や学習カードなど、各校のよいものを吸収し合えた。
○研究の方法や経過について	・パワーポイントを使った発表は、図などが見えて分かりやすかった。 ・グループ活動や付箋の使い方などご指導いただけよかった。 ・「なるほど」と思うような意見が聞け、単元を貫く学習問題や教材研究の重要性を感じた。 ・主事先生の討議での方向付けが的確で大変勉強になった。
○研究会当日の運営について	・生徒の挨拶や対応がとてもよかった。 ・一人のレポート発表の時間や討議の時間がもう少しあるとよい。

(社会 11)

○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none">・昨年度のものが大変参考になった。初めて参加する先生はありがたい。・ホームページは情報交換しやすくとても便利だった。・運営について周知徹底しないと伝わりにくい。意識しないとホームページを見ない。学校メールだと本人に届くのに時間がかかってしまう。
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none">・負担もなくありがたかった。・情報がぎりぎりとなってしまうことがあり改善してほしい。・メールに対してすばやく対応していただきありがたかった。・レポート持参数が直前で変更になったため、参加申込みをどこかで区切る必要がある。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none">・本年度の継続でよい。・資料の量や提示の仕方などについても考えたい。・個の追究と全体の追究の在り方について考えたい。・言語活動を通じた「表現」に寄せたものをお願いしたい。
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none">・生徒の活動を中心に、どのように支援していくかを考えていきたい。・グループ活動の在り方について考えていきたい。
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none">・「導入」「ワークシート」「生徒の反応」などの実践報告をさらに聞きたい。・共に考えるというスタイルはとても勉強となる。・参加者全員がレポートを持参するという方法は、参加者がお互い学べる機会となるため、来年度もぜひ続けてほしい。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none">・読み込んで検討する時間があるとよい。後半は1本のレポートを読み深めるなど時間のメリハリをつけてはどうか。・1分科会あたりのレポート数が多くなったため、レポート吟味の時間があるとよい。分科会数を増やしてはどうか。・レポートなしでも参加できるようにしてほしい。・全県から来校するため、開始時間をもう少しゆとりがあるとよい。

VI あとがき

11月21日(金)、県下各地から39名の先生方にお集まりいただき、本年度の研究協議が行われました。この研究協議から、明日の実践に役立つ多大な成果をあげることができました。終始、温かく、また的確なご指導、ご助言をいただき、演習により教材研究の楽しさを学ばせてくださいました指導主事の喜多篤史先生、柳澤正寿先生、百瀬頭正先生に心から御礼申し上げます。また司会の先生方には、綿密な計画のもとに研究会を盛り上げ、討議を深めていただきました。記録の先生方には、当日の記録と本集録の原稿をまとめていただきました。世話係の先生方には、準備から当日の細部にまで気を配っていただき、円滑な運営の陰の力としてご尽力いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。さらに、すべての参会の先生方がレポートを持ち寄り、貴重な実践を基にしながら、熱心にご協議くださり、この会を盛り上げていただきました。ここに、ご参会のすべての先生方に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

委員長 麦島 隆
副委員長 楠 武明